



第30回東京国際映画祭 開催概要
2017年4月7日現在

公益財団法人ユニジャパン
東京国際映画祭事務局

ご挨拶

この度、東京国際映画祭フェスティバル・ディレクターに就任いたしました久松猛朗です。

これまでチェアマン、ディレクター・ジェネラル、そして今回はフェスティバル・ディレクターと呼称は変わってきましたが、錚々たる方々が担ってこられた重責を引き継がせて頂くことは、大変光栄なことと感じますと同時に、身の引き締まる思いでもあります。

1978年に松竹株式会社に入社以来、劇場勤務、宣伝、番組編成、海外劇場支配人、洋画配給、邦画配給、洋画買付、邦画製作など様々な業務を経験しながら、約40年に渡り多面的な視点から映画を学んできました。同時に、映画に関わる色々な職種の方々と出会い、映画に対する考え方や価値観が多様であることを肌で感じてきました。

実際、映画の世界は実に多様です。日本の映画と世界の国々・地域の映画、作家性の強い映画と娯楽色の強い映画、シリアスドラマからコメディやアニメまでバラエティ豊かなジャンル、普遍的な或いは時代や地域を反映する様々なテーマ。その多様で多彩で豊かな映画の魅力を幅広く紹介し、映画祭を通じて多くの人たちと「映画を観る喜び」「映画を観る楽しさ」を共有していければと思います。

今回、東京国際映画祭は第30回という節目の開催となります。これまで東京国際映画祭に参加して頂いた皆様や、支えて頂いた方々への感謝の気持ちを込めて、これまで29回の歴史を彩ってきた作品やゲストを振り返りつつ、これから映画祭が進んでいくべき方向性、ビジョンを明確にし、そこに向かって一步を踏み出す年にしたいと思っています。

映画祭には多くの方々が関わられていて、それぞれの立場から様々な期待が寄せられていますが、それらは全て「映画文化と映像産業の発展」という大きなミッションへの貢献というベクトルに収斂されていくものであると確信しています。

その大きなミッションへの貢献に向けて、同時に開催されますTIFFCOMとも緊密に連携を図りながら、スタッフと共に全力で取り組んでいく所存です。何卒、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



第30回東京国際映画祭
フェスティバル・ディレクター
久松 猛朗
(ひさまつ たけお)

<略歴>

1954年山口県下関市生まれ。78年松竹株式会社に入社。宣伝プロデューサー、映画興行部・番組編成担当等の勤務を経て86年にアメリカ松竹「リトル東京シネマ」の支配人となる。89年に東京へ戻り、興行部次長に就任。94年タイムワナーエンターテインメント・ジャパン株式会社に入社し、ワーナーブラザーズ映画の営業本部長となる。その後、松竹株式会社に再入社し、2001年取締役映画部門&映像企画部門を担当。03年に常務取締役就任。06年株式会社衛星劇場 代表取締役社長を経て、10年ワーナーエンターテインメント・ジャパン株式会社に再入社。ワーナーブラザーズ映画 副代表となる。現在はマイウェイムービーズ合同会社 代表。

開催概要

名 称	第30回東京国際映画祭
主 催	公益財団法人ユニジャパン (第30回東京国際映画祭実行委員会)
共 催 (予 定)	国際交流基金アジアセンター (アジア映画交流事業) 東京都 (コンペティション部門、ユース部門)
期 間	2017年 10月 25日 (水) ~ 11月 3日 (金・祝) [10日間]
開催会場	六本木ヒルズ、EXシアター六本木 (港区) ほか 都内の各劇場及び施設・ホールを使用
後 援 (予 定)	総務省／外務省／経済産業省／観光庁／港区／ 独立行政法人日本貿易振興機構／東京国立近代美術館フィルムセンター／ 公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団／ 一般社団法人日本経済団体連合会／東京商工会議所／ 一般社団法人日本映画製作者連盟／一般社団法人映画産業団体連合会／ 一般社団法人外国映画輸入配給協会／ モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA) ／ 全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／ 特定非営利活動法人映像産業振興機構／一般社団法人日本映像ソフト協会／ 一般財団法人角川文化振興財団／一般財団法人デジタルコンテンツ協会／ 一般社団法人デジタルメディア協会
支 援 (予 定)	文化庁 (国際芸術フェスティバル支援事業) 経済産業省
協 賛	約30社を予定
協 力	新聞・テレビ・WEB等の有力メディア並びに関連会社数社を予定

東京国際映画祭とは



日本で唯一の国際映画製作者連盟公認の映画祭

第30回を迎える東京国際映画祭（以下 TIFFF）は日本で唯一の国際映画製作者連盟*公認の国際映画祭です。1985年、日本ではじめて大規模な映画の祭典として誕生した TIFFFは、日本及びアジアの映画産業、文化振興に大きな足跡を残し、アジア最大級の国際映画祭へと成長しました。いまや最も熱気溢れるアジア映画の最大の拠点である東京に世界中から優れた映画が集まり、国内外の映画人、映画ファンが新たな才能とその感動に出会い、交流する場を提供します。

* 国際映画製作者連盟：世界の映画産業、国際映画祭の諸問題を改善し、検討する国際機関。パリに本部を置き、世界 30 カ国（2017年3月現在）が加盟している。

他では見られない世界の秀作が集結し、グランプリ作品が決定！

才能溢れる新人監督から熟練の監督までを対象に、世界中から厳選されたハイクオリティなプレミア作品が集結。国際的な審査委員によってグランプリが選出される「コンペティション」には昨年、98の国と地域から1,502本もの応募があり、年々注目度が高まっています。第24回グランプリ作品『最強のふたり』はその後、フランス語映画として世界歴代1位の観客動員を記録し、日本でもロングランヒットが話題になりました。

新しい才能が集う、アジアで最も注目される映画祭

TIFFFは創立時から映画クリエイターの新たな才能の発見と育成に取り組んできました。入賞者の中からは、後に『アーティスト』（11）でアカデミー賞5部門を受賞したミシェル・アザナヴィシウス監督や、『バードマン あるいは（無知がもたらす予期せぬ奇跡）』（15）『レヴェナント：蘇えりし者』（16）と2年連続でアカデミー賞監督賞受賞のアレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトゥ監督など、国際的に活躍するクリエイターたちが出現し、日本からも深田晃司監督が『淵に立つ』（16）で昨年のカンヌ映画祭「ある視点」部門の審査員賞を受賞するなど、新しい才能が次々に世界へと羽ばたいています。

映画を核とした一大イベントの実施

会期中、映画ファンだけでなく大人から子どもまで大勢の人々が参加し、楽しめる多彩なイベントを実施。学生、プロ、ビジネス来場者を対象とした貴重なセミナー、シンポジウムやワークショップなど多数開催し、フォーラムやマーケットとの連動を意識した参加交流型フェスティバルとして人と映画、ビジネスのリンケージを実現します。

併設マーケットとの強い連携

今年で15回目を迎える併設のマルチコンテンツマーケット TIFFCOM は、昨年、世界各国から356もの出展団体があり、49の国と地域より約1,500名を超えるバイヤーが訪れるアジアで最も注目すべきマーケットへと成長を遂げています。他では見られないマーケットとの連携の深さも東京国際映画祭の大きな特徴のひとつです。東京から世界の映画産業へ向けて、新たな交流の場を提供し、国際共同製作や国際ビジネスに結び付けています。

部門紹介

東京国際映画祭の上映作品は、多彩な9つの主要部門によって構成されています。

コンペティティブ

● コンペティション 部門

2017年1月以降に完成した長編映画を対象に、世界各国・地域の応募作品の中から、厳正な予備審査を経た16本（予定）の作品を期間中上映します。昨年は98の国と地域から1,502本もの応募がありました。国際的な映画人で構成される審査委員のもと、クロージングセレモニーで各賞が決定されます。

● アジアの未来 部門

“アジア発、世界へ、未来へ！”長編映画3本目までのアジア新鋭監督の作品をいち早く上映するアジア・コンペティション部門。日本から中東まで、いま最も活気に満ちたアジア圏のこれからの映画界をリードする作品を紹介します。また、選出された作品の監督やキャスト・スタッフを招聘して日本の観客や映像業界との交流を図り、アジアの才能を世界へ発信します。最優秀作品には「アジアの未来 作品賞」が贈られます。さらに、文化の違いを超えて国際的に活躍していくことが期待される監督に、「国際交流基金アジアセンター特別賞」が贈られます。

● 日本映画スプラッシュ 部門

海外への飛躍を強く意識した部門。活況を呈する日本のインディペンデント映画から、とりわけ個性が強く、独創性とチャレンジ精神に溢れる作品を監督のキャリアを問わず紹介します。出品作品は、海外から招聘する国際映画祭プログラマーやプレス、パイヤーに積極的に紹介されます。

ショーケース

● 特別招待作品 部門

日本公開前の最新作をプレミア上映する特別招待作品は、オープニング、クロージング作品を中心に大作や話題作が揃う、華やかな部門です。国内のみならず海外からもスターが来場し、会期中に開催されるイベントを大いに盛り上げます。

● Japan Now 部門

過去1年の日本映画を振り返り、現在の日本を代表する作品の数々を、映画祭独自の視点でセクションする部門です。この部門を見れば、いまの日本映画を概観できるとともに、現在の日本が多面的に見えてきます。また、気鋭の監督をピックアップし、特集上映を行うことでさらなる飛躍を応援します。

● ワールド・フォーカス 部門

世界各国・地域の映画祭受賞作や話題作、あるいは有名監督の日本で紹介されていない新作に注力し、日本公開が未決定の貴重な作品を取り上げます。欧米の作品に加え、アジアの有力作品も上映します。TIFF 開催後に半数以上の作品の日本公開が決定。「ワールド・フォーカス」が世界の話作のショーケースとしての役割を果たしていきます。

クローズアップ

● 国際交流基金アジアセンター presents CROSSCUT ASIA 部門

国、監督、俳優、テーマなど様々な切り口のもとでアジア映画を特集していく「国際交流基金アジアセンター presents CROSSCUT ASIA」部門。過去3年間タイ、フィリピン、インドネシアを特集いたしました。4年目を迎える今年、新たなテーマでアジアの現在(いま)を鋭く切り取った珠玉の映画を紹介していきます。

● 日本映画クラシックス 部門

デジタル・リストアされた日本映画を上映する本部門では、日本が誇る名作の数々が鮮やかにスクリーンに蘇ります。

● ユース部門

若い映画ファン・映像作家の創出を目的に昨年設立された部門です。若い世代に向けた魅力的な作品を紹介するほか、多彩なワークショップ等を実施予定です。